

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成31年1月29(火)発行

【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

音には“様々な表情”がある！超一流の演奏を堪能 上野耕平氏によるワークショップ(講習会)開催！ 1/23(水)

1月23日(水)には、日本を代表する若手サクソフォン奏者である上野耕平さんが来校し、ワークショップ(講習会)を実施しました。これは東京藝術大学と郡山市の連携事業の一つとして開催されたものです。東京藝術大学教授、教育芸術社編集部、プロのカメラマンの方々も随行し来校されました。

郡山市音楽アドバイザーの佐藤守廣先生のコーディネートにより、吹奏楽部2名の生徒へのレッスンもまじえながら、上野さんが3つの楽曲を演奏してくれました。超一流のプロの演奏は鳥肌が立つほど見事なもので、「こんな音まで出せるのか」と驚きの連続でした。上野さんの演奏するときの顔の表情や姿と相まって、まさに音には“様々な表情”があるということを感じることができました。参加した生徒そして教職員全員が“本物”を大いに堪能することができました。

ワークショップでは、吹奏楽部の飯村琴海さんと角田凜さんの2名が上野さんから直接指導を受けました。サクソ3重奏「ガラスの香り」という曲で、音をイメージすることや息の吹き方、ジャズの表現の仕方などのアドバイスを受けました。音色や強弱などが変化し、上手になっていく様子が分かりました。また、ユーモアをまじえた生徒との絡みもとても面白かったです。直接レッスンを受けた生徒にとっては大きな財産になったことでしょう。それを観ていた我々にも学ぶべきことがたくさんありました。

最後には、1本のサクソで様々な音を表現する曲が披露されました。生徒の席の間を歩きながら、多様な音色で強弱をつけつつ、絶妙な間をとりながらの演奏でした。約1時間のワークショップでしたが、卓越した演奏

技術、スマートな立ち振る舞い、軽妙なおしゃべりなど上野さんのエンターティナー性に感動・感心するばかりでした。校長室に戻られた上野さんは、開口一番「楽しかった！」と言葉を發しました。

とても気持ちよく演奏ができたそうで、

“除夜の鐘”等のオプションも特別に披露してくださいました。生徒のみんなの

演奏を聴く真剣な眼差しや前向きな鑑賞態度が上野さんの気持ちを高めてくれたのだと思います。上野さんの更なるご

活躍をお祈りします。また、このような機会を与えていただいた東京藝術大学、

郡山市等関係者の皆様に感謝申し上げます。

来年2月には福島市(福島テレサ)にて演奏会を開くとのことでした。

今回、インフルエンザの流行に伴い、大切な最後の定期テストや県立I期選抜を控えていた3年生には、そのリスクを考慮し、参加しない措置をとりました。

上野さんをお願いしたところ、ビデオ撮影を快諾していただきました。後日、音楽の時間等を利用して、今回のワークショップの様を観てほしいと思います。

少しでも雰囲気味わってくれればと願っています。



「上野さんの音楽愛が伝わるすばらしい講習でした！」

講習会に参加した生徒達の感想です！

(2年男子生徒)

- 上野さんの講習会に参加して、音楽の楽しさやすばらしさを学びました。上野さんは聴いている人の心に染み渡りようなきれいな音を体育館いっばいに響かせていました。上野さんは小学2年生の時にサクスを始めて小学6年生の時にプロの演奏家になると決めたという話を聞いて、幼い頃から自分の夢を持って、日々その夢に向かって練習を積み重ねていったことがすごいなと思いました。私も自分の夢の実現に向かっていきたいです。(1年女子)
- 音楽は人の心を支えているいろいろな感情を引き出すことができるもので、これからも大切にしていきたいと思います。僕は何かを続けるということがなかなかできません。将来につなげるために、上野さんを見習って一步一步続ける何かを見つけ、上野さんのように大きな夢を持って、希望に満ちた未来をつかっていきたいです。(1年男子)
- 初めてサクソフォンの生演奏を聴いて、イメージがガラリとくつがえるとも特別な一時を過ごすことができました。「いい音って何だろう？」という上野さんの質問で、私は、聴いていると自然と顔がゆるんで心地良いと思える音ではないかと考えました。上野さんの奏でる音色が丁度そんな感じで、一つ一つの音が丁寧に扱われていて、気持ちも穏やかになりました。合唱をやっている私にとって、「アンサンブルではパート同士がゆずり合っているとは思えない！」という言葉もとても勉強になりました。また、イメージをくつがえされるという意味で衝撃的だったのが、除夜の鐘の音やロックバンドでうなるエレキギターの表現でした。目をつむって聴いてサクソフォンだよと言われても「まさかあ」としか言いようのない本物にそっくりな音でした。上野さんの言葉通り、あの一本の楽器に秘められた大きな可能性を感じました。(1年女子)



- 上野さんは演奏だけでなく指導も一流だと思いました。上野さんの指導はサクソフォンだけのことではなく、スポーツや勉強、生活などに生かせることが多く、僕自身もとても勉強になりました。その中でも特に「なりたいたいものをイメージする」という話は深く心に残りました。僕も今打ち込んでいるサッカーにおいて、なりたいたい選手をイメージしながら具体性をもって努力したいです。(2年男子)



- 私が初めに驚いたのはサクスのあやつり方です。強弱の幅が本当に広く余韻かな？と感じるところも実は上野さんの技術で、とても優しく小さく吹いていたのが印象的でした。私の思っていた「強弱」とは全く違うものでした。「癒しを与えてくれるのが音楽である」という言葉も本当にその通りだと思いました。今回、上野さんの音を間近で聴けたことが、私にとって「楽器を吹ける」という誇らしさを教えてくれた講習会でした。(2年女子)
- 私は自分の中で何かが変わった気がしました。それは楽器を演奏するうえでの意識です。耕平さんはとびきりの笑顔でしかもそれをみんなに伝えるように吹いていました。まるでみんなに絵本の読み聞かせをしているようでした。頭の中には曲から連想される景色、人々の声が聞こえてきました。耕平さんは自分から楽しんでいるからあんなにいい音色で人々を魅了させることができるのだと考えました。自分もあんな音を出してみたい、人に伝わるような演奏がしたいと思いました。改めて音楽の偉大さに気がつきました。吹奏楽は一人だけでは伝えられません。いつも仲間がいて互いに助け合えるような存在がいるからこそ、いい音楽ができるのだと思います。(2年女子)

◆ 私は上野さんに直接指導していただくことができました。普段練習では気付けない息の入れ方や曲の捉え方を知ることができてうれしかったです。また、上野さんの演奏を生で聴けて、音の厚みにびっくりしました。私は練習での音色が毎日安定せず、リードのせいだと思っていました。しかし、上野さんに方法を教えてもらっただけで、一瞬で音色や音の響きが変わってびっくりしました。今回の講習会では、技術はもちろん吹く楽しさをいつも以上に感じることができました。これからさらに研究し、いろいろな音を出すことにチャレンジしていきたいと思います。(2年飯村琴海)

- ◆ 講習を受けて、たくさんの発見があったし、自分の弱点を見直すこともできました。耕平さんの見方と私の見方が全く違うもので、こんな見方があるんだ！と感激しました。ジャズはやる気のあるメリハリのある感じで吹くという考えをもっていたけど、耕平さんは少し遅らせてやる気満々で吹かない、アメリカンでクールな感じと言いました。耕平さんは全部が全部少しだしらない感じで吹いていたわけではなく、みんなで一斉にはじけるところではメリハリのついたかっこいい感じに吹き、ワルツのところは華やかにのびのびと吹いていました。曲の場面に合わせて雰囲気を変えている耕平さんは、私のずっとなりたかった私、理想の私でした。いい音は曲によって雰囲気を変えて、みんなを驚かせたり、幸せにしたりできるんだと思いました。耕平さんの教えを忘れずに、自分の可能性を広げる第一歩にしたい！今回の体験は一生の宝物です。(2年角田 凜)

